

# 心豊かな世代が育つ

## 童話の里づくり 427

—シリーズ— あなたの人権・わたしの人権

### 「差別のない世界へ」

くす星翔中学校 2年

藤本 凜

「お前って、本当女らしくないね。」  
小さい時、男子から言われたこの  
言葉を私は今でも覚えてる。

その頃は「男の子っぽい女の子は  
かっこいい」という気持ちがあり、  
この言葉を褒め言葉として受け取っ  
たが、今、思い出すと笑い事ではす  
まないなと思った。

私は「男だから…」 「女だから…」  
と決めつけ差別する、いわゆる「性  
差別」をする人たちを軽蔑する。

きっと大体の人が同じ気持ちだと  
思うが、それでも、町でスカートをは  
いた男性を見ると、私を含めほと  
んどの人が少し驚いてしまうと思う。  
私も無意識に差別的な言葉を使っ  
たことがあった。幼い頃、泣いてい  
る男子に向かって、

「男なんだからもっとしつかりして

よ。」などと決めつけ、ひどいこと  
を言ってしまったことがあり、反省  
している。

「女性は家のことだけをすればよ  
い」など、昔からある差別が今も田  
舎など使われている。

私の母も父と結婚した時に、父の親  
戚から「ちゃんと夫の家の色に染ま  
りなさいよ」と言われたことがある  
と言っていた。

このように昔の名残が抜けない地  
域では、こんな発言が日常的なため  
差別とは思わず無意識に言っている  
ことが多い。

無意識ということは、相手が傷つ  
いていることも分からないし、罪悪  
感もないので、高齢の方であろうと  
「それは現在だと『差別』と言われ  
てしまいますよ。」と、出来る限り  
注意をしたいと思う。

他にも性差別で苦しんでいる人た  
ちはたくさんいる。いわれない悪

口やジロジロ周りから嫌な目で見ら  
れたりと生活するのも大変な人がい  
る。そんな人たちのことを考えると、  
今まで無責任に放ったことばや偏見  
に縛られていた自分が恥ずかしく  
なった。

差別だらけの社会に生きる自分、  
せめて自分だけでも変えよう、そう  
決心して、私は三つの目標を立てた。  
一つ目は、人を女か男かで区別し  
ないこと。

見た目は男性でも本人の気持ちは  
女性だという人もいるからだ。人を  
外見だけで見ずに、その人の心を  
しっかり受け止めたい。

二つ目は、当たり前だけど、相手  
の気持ちを考えて発言すること。

相手の表情や声のトーンから今ど  
んな気持ちでいるかよく考え、相手  
の立場になって発言することが大切  
だと思うからだ。

三つ目は、差別的な発言をしてい  
る人を怖がらず注意すること。

この目標は、簡単なようで一番難  
しい。注意した人に悪口を言われた  
り、嫌われたりするのが怖くてなか  
なか踏み出せないものだから。でも  
今まで傷ついてきた人のことを思い  
三つ目の目標を一番意識することに  
した。

私一人が動いても社会は変わらな

いと思う。しかし、一人でも多くの  
人が性差別に対して意識を向けてく  
れば、少しずつ社会は変わると思  
う。

私は、「女らしくない」と言われ  
て、今は良かったと思っている。

おかげで性差別について考える機  
会が増えたからだ。

前にも述べたが、これからは差別  
的な発言をする人に対して、怖がら  
ずに言いたい。

「人間なんて、みんな違うんだか  
ら、ちゃんと相手の気持ちを考えて  
発言してみてください。」と。

いつかどんな人も笑顔で暮らせる  
日が来れば良いと思う。

この人権作文について、意見や  
感想、激励など、お寄せください。  
また、みなさんの投稿もお待ち  
しています。

わたしたちをとりまく様々な不  
合理や差別について気づいたこと  
や感じたことを、二〇〇字程度  
にまとめてみましょう。住所、氏  
名、連絡先電話番号を記入して  
(匿名可)、玖珠  
町教育委員会社会教  
育課「あなたの人権・  
わたしの人権」まで  
お届けください。

